

# PANews

Vol. 22, No. 4, Nov. 2012

ISSN 1881-2864

PA ニュース

発行：日本生理人類学会

www.jspa.net

## もくじ

▽国際会議レポート	.....	1
▽国際会議のお知らせ	.....	2
▽研究部会レポート	.....	3
▽学会動静	.....	4
▽役員選挙のお知らせ	.....	5
▽ from Editors	.....	6

### 【国際会議レポート】

#### ICPA インターコンGRESS 2012 報告

国際担当理事 原田 一・恒次祐子

2012年9月2～5日の日程で、北京国際会議中心 (Beijing International Convention Center) にて、テーマ：Adapting to life in Asian Mega-citiesのもと、Wei Wang 教授および Alan Bittles 教授を会議長として ICPA インターコンGRESSが開催された。Plenary session 3題，口頭発表 19題，ポスター発表 31題，若手研究者発表会として7題がエントリーされ，日本，中国，オーストラリア，ドイツ，フランス，ロシア，USA などから日本人 34名を含む 120名の参加があった。

9月2日には登録および歓迎会が行われ，歓迎会は宿泊していた北京北辰五洲大酒店のレストランにてビュッフェスタイルで開催された。参加者は Wei Wang 教授のもてなしに感謝しつつ，交流



9月2日 17:30～ 歓迎会  
Bittles IAPA 会長(中央)，Wang 教授(右)



9月3日 9:00～ 開会式(石橋圭太理事提供)

を深めていた。

9月3日は，宿泊していた北京北辰五洲大酒店に隣接する会場にて，8時30分より登録開始，9時より開会式が行われ，Wei Wang 教授による挨拶に続いて，首都医科大学学長 Zhaofeng Lü 教授による挨拶，IAPA 会長 Alan Bittles 教授による挨拶があった。

その後，以下の4つのセッションにおいて招待講演および研究発表が行われた。

Session1: Migration, demography and mega-cities

Session 2: Exercise, health & wellbeing

Session 3: Profiling diseases of adulthood

Session 4: Younger researchers' Colloquium

セッション1では，The new demography of urban China のテーマで W. Lavelly 教授(ワシントン大学，USA)による講演があった。

17時より，若手研究者による発表会が行われ，



活発な議論がなされている会場



9月4日 18:00～ バンケット  
Bittles IAPA 会長(右端)を囲んで

特に中国と日本との交流が積極的になされたようである。また、同時時間帯に開催された General Assembly では、Bittles 教授、Jürgens 教授、勝浦教授ほか IAPA 役員および他の参加者が集い、IAPA の今後の方針について議論を行うとともに、役員の一部が改選され、承認された。

9月4日は9時より開始され、以下の3つのセッションが行われた。

Session 5: Physiological anthropology in design and practice

Session 6: Physiological effects of temperature and light

Session 7: Living in an urban environment

セッション5では、The importance of Physical Anthropology for the design of technical products のテーマで H Jürgens 教授(キール大学、ドイツ)により、セッション7では、The 1000 Homes Study: using public science to understand the ecology and evolution of species that live on us and around us in our houses and how they affect our health and well being in an increasingly urban world のテーマで、R Dunn 教授(ノースカロライナ州立大学、USA)による講演があった。

18時よりホテル内のレストランにてバンケッ



北京市内から北西へ約 50 キロにある「居庸関長城」

トが開催され、参加者は、8～9名の円卓で研究の議論、IAPA の将来構想についての意見交換を行ったほか、若手研究者の国際的交流も進んでいたようである。

閉会式では、2013年8月に、次回の国際会議がカナダのバンフにて、カルガリー大学の Warren Wilson 先生を会議長として開催されることがアナウンスされた。さらに、2015年の開催地に香港が候補として挙げられた。

9月5日は、エクスカージョンとして万里の長城のうち「居庸関長城」を訪れたが、石の階段は急斜面になっている箇所や、平でない箇所も多く、歩きづらく、途中で挫折する参加者もいたが、Bittles 教授ほか 10名ほどの日本人が最上部の敵楼まで到達し、世界遺産に感激していた。

今回の会議は、中国において Physiological Anthropology について認識してもらうことや、アジア・オセアニアでの基盤を固めるという Bittles IAPA 会長の意向が強かったこともあり、国際生理人類学会議に初めて参加する中国・オセアニアの参加者も多かった。日本人以外の参加者が7割であったことは、IAPA の将来にとって、重要な会議となったのではないかと思われる。

#### 【国際会議のお知らせ】

##### ICPA2013 開催のご案内

下記の日程で、ICPA2013 が開催されますので、皆様のご予定に加えていただければ幸いです。詳細については、PANews および学会 HP にて逐次お知らせいたします。

**会 期**：2013年8月7日～11日(7日：登録& 歓迎会)

**会 場**：Banff Centre, Alberta, Canada

**会議長**：Warren Wilson 先生

(Biological Anthropology, University of Calgary)

[www.jspa.net](http://www.jspa.net)

【研究部会レポート】

姿勢研究部会第5回研究会

部会長 藤原勝夫(金沢大学)

平成24年9月1日に姿勢研究部会第5回研究会を金沢大学で開催いたしました。今回の研究会は、13時から18時20分までの開催とし、研究会終了後には夕食会を企画いたしました。会員の方には、既に学会等で発表された内容でも、研究途中で整理されていない内容でもかまわないので、話題を提供していただくようお願いいたしました。その趣旨を理解していただき、15題の話題が提供されました。提供される話題について十分な論議ができるように1つの話題について20分間の発表・質疑の時間を設定しました。それにもまして、発表当日は、時間を無視した長時間の白熱した論議が行われました。さらに、夕食会には殆ど全ての参加者が集い、研究談義を21時頃まで延々と続け、研究三昧の一日となりました。下記に、発表いただいた研究テーマと登壇者を記載します。

なお、来年度は、8月下旬から9月上旬にかけて松村秋芳先生のご尽力により防衛医科大学校で開催することに決まっております。

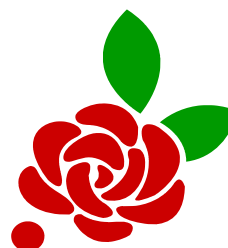
姿勢研究部会第5回研究会での

研究テーマと登壇者

1. ヒトの一侧優位性における性差はあるか  
松村秋芳(防衛医科大学校生物学教室)
2. 安静立位時における筋活動優位側の発達の变化  
清田岳臣(札幌国際大学人文学部)
3. 足踏み運動時の脳活動の左右差および性差と運動様式の関係  
開田千鶴(金沢大学大学院医学系研究科, 森ノ宮医療大学保健医療学部)
4. 頸部前屈保持時の眼球運動反応時間短縮の発達様相  
国田賢治(札幌国際大学スポーツ人間学部)
5. 上肢運動時の予測的姿勢制御における圧中心の前方移動範囲制限の影響  
藤原勝夫(金沢大学大学院医薬保健研究域医学系)
6. 主軸解析法からみた Body Tracking Test

吉田友英(東邦大学医学部耳鼻咽喉科学講座(佐倉))

7. 後方床移動による姿勢外乱に伴う事象関連脳電位に対する異なる指反応課題挿入の影響  
清田直恵(大阪保健医療大学リハビリテーション学科)
8. 高齢者におけるオドボール課題での標的刺激提示率による P300 成分と予測的姿勢制御の変化  
沈 雪珠(金沢大学大学院医薬保健研究域医学系)
9. 重度廃用高齢者への 24 時間姿勢ケアの与える影響—長期介入により運動と言語に見られた変化—  
新田淳子(東京有隣会第2有隣ホーム)
10. 高齢者の水中運動訓練による体力の変化  
外山 寛(金沢大学大学院医薬保健研究域医学系)
11. 床振動時の姿勢制御の適応に伴う身体動揺および姿勢筋活動の変化  
斉藤正浩(金沢大学大学院医薬保健学総合研究科)
12. 床振動時の予測的姿勢制御における視覚誘発電位  
伊禮まり子(金沢大学大学院医学系研究科)
13. 反応刺激の提示タイミングの変動が立位における予測的姿勢制御と脳波の随伴陰性変動におよぼす影響  
前田 薫(森ノ宮医療大学保健医療学部理学療法学科)
14. 注意分散の増大が一侧上肢外転運動時の予測的姿勢制御に及ぼす影響  
矢口智恵(北海道文教大学人間科学部理学療法学科)
15. 視空間の手がかり課題における刺激間隔の違いが一侧上肢外転運動時の予測的姿勢制御と事象関連電位に及ぼす影響  
阿南浩司(札幌国際大学スポーツ人間学部)



## ものづくり研究部会報告：企業における研究開発 コンセプトの事例

高原 良(株式会社イトーキ)

この度、ものづくり研究部会の代表幹事を務めさせていただくこととなりました。未熟者で至らぬ点もあるかと思いますが、部会活動に貢献できるように一生懸命務めさせていただきますので、どうぞ宜しくお願い致します。

ものづくり研究部会は 2012 年 8 月 24 日(金)に、京都にて開催されました日本生理人類学会夏季セミナー内で部会を開催致しました。その際、「Ud & Eco スタイルコンセプトを実現する研究開発」と題して、私どもの研究開発事例を紹介いたしましたので、誌上にてその模様を報告させていただきます。

私どもは、ユニバーサルデザインとエコを組合せた Ud & Eco(ユーデコ)という造語をコンセプトに据えて、ヒトと環境の両方にやさしいものづくりを目指しています。また、そういったコンセプトを実現するためには、研究によってヒトへの影響を捉え、特徴を把握した上で製品の仕様や使い方の企画開発に移行することが望ましいと考えています。研究会当日の開発事例では、高さの異なる3種類のデスクを使用し、それぞれ椅座位、高座位(両者の中間)、立位といった異なる作業姿勢で働いた場合の、生理・心理・行動といった影響を多面的に検討し、空間プランニングの中でそれぞれのデスクの適した使い方を提案するまでの研究開発プロセスを紹介させていただきました。発表後の議論も活発に行われ、研究者、メーカー、ユーザーといった幅広い目線からのご意見を頂戴することができました。

ものづくり研究部会は、使用者、製作者、研究・開発者による三位一体のものづくりと様々なヒトを多面的かつ客観的に評価し、発想する生理人類学的なものづくりという2つの考え方をベースに活動を行っています。それらに共通して重要なのは、多様な立場や視点から議論を深めなければならないということだと感じています。

今後もより多くの方にご参加頂き、有意義な議論ができるよう研究部会を企画していきたいと思っておりますので、どうぞ宜しくお願い致します。

## 【学会動静】

### 夏期セミナー 2012

企画担当理事 福島修一郎(大阪大学)

2012年8月23日～24日に京都・洛北の関西セミナーハウスで夏期セミナーが開催されました。合宿形式でおこなう初の試みでしたが、62名の参加があり盛会のうちに終わりました。

プログラム：

- 1日目 研究部会企画  
講演  
研究ポスター発表  
若手の会企画・懇親会
- 2日目 生理データの計測講習  
研究部会講演会



セミナー会場



ポスター発表

1日目の研究部会企画では、快適性、感性、高齢者居住、照明、ものづくり、システムバイオエンジニアリングの6部会の紹介がありました。各部会の発表時間が15分間で部会紹介には十分でなかったかもしれませんが、生理人類学の対象の広さを実感できるものでした。

その後、福岡義之先生(同志社大学)に「サイン波運動負荷時の肺-循環-筋の連関を中心とした生理応答と応用研究の紹介」の講演をしていただきました。参加者の6割は学生でしたが、基礎的なことから分かりやすく説明していただけたので、生理人類学的な研究の方法論の一端が理解できたのではないかと思います。

研究ポスター発表では15演題の発表がありました。通常の大会のときと同じ形式での、学部生も含む若手の発表でしたが、学生同士の討論もあって、想定していたよりもレベルの高いものでした。演題募集のときは、できるだけ多くの発表の機会を確保するために途中段階の研究でも発表可としたのですが、杞憂に過ぎなかったようです。

夕食後には若手の会の企画としてグループディスカッションを行いました。課題は「20年後の



若手の会企画



生理データの計測講習

人間の〇〇と〇〇はどこまで明らかにされていると思うか？」をアドバイザーの先生と共に 30 分間で議論してまとめるというものでした。他大学の学生も交えて大きなテーマで議論しなければならないので、最初は戸惑いもあったようですが、良い刺激となったのではないのでしょうか。

2 日目の午前中の生理データの計測講習では、ニホンサンテック株式会社の金子秀樹さんを講師としてお招きして、生体電気現象の計測法の解説をしていただきました。筋電図(EMG)と脳波(EEG)の実測を中心に、各種アーティファクト(ノイズ)の原因と防ぎ方の説明もあり、初心者にとっても既に研究に使っている人にとっても為になる講習でした。

午後からは2会場に分かれて以下の研究部会講演会が行われました。

#### ・ものづくり研究部会

「Ud&Eco スタイルコンセプトを実現する研究開発」高原 良(株式会社イトーキ)

#### ・高齢者居住研究部会

「ニュータウン居住高齢者の不安因子と求められる支援」生田英輔(大阪市立大学)

「安心手帳を活用した高齢者の健康管理と生活支援」高井逸史(大阪物療大学)

「高齢者の生活パターン診断指標と ICT の活用」杉山正晃(大阪市立大学)

#### ・照明研究部会

「光と色の研究をするための基礎知識について」高橋良香(千葉大学)

#### ・快適性研究部会・感性研究部会

「ヒトの循環調節反応から快適性を評価する」石橋圭太(千葉大学)

「心理社会的ストレスが唾液中内分泌に及ぼす影響」山田クリス孝介(佐賀大学)

「感性研究における中枢神経系指標の有用性」元村祐貴(国立精神・神経医療研究センター)

企画段階ではどのようなセミナーになるのか分からずに手探り状態のまま実行したというのが正直なところですが、参加者の皆さまからは高評価をいただき、実行委員一同、胸を撫で下ろしています。既に来年も開催する方向で準備を始めており、学会員の新たな交流の場として定着すればと願っております。

**実行委員：**中村晴信(神戸大学, 委員長), 福島修一郎(大阪大学), 樋口重和(九州大学), 下村義弘(千葉大学), 若林斉(千葉工業大学), 高橋隆宜(大阪市立大学), 西村貴孝(九州大学), 小原久未子(神戸大学)

### 日本生理人類学会役員選挙 (2013-2014 年度)

#### 日程ならびに実施手続きについて

#### 選挙管理委員会

来年 2013 年は、理事をはじめとする役員選任の時期にあたります。日本生理人類学会役員選出規定に従い、下記の日程で役員選挙ならびに選任手続きを実施いたします。会員各位のご協力をよろしくお願い申し上げます。

#### 記

2012 年 12 月 17 日	被選挙人名簿作成
2013 年 1 月 10 日	評議員選挙投票用紙発送
1 月 30 日	評議員選挙締切および開票
2 月 1 日	評議員就任依頼文書, 就任諾否の葉書発送
2 月 13 日	評議員諾否締切
2 月 15 日	理事・監事選挙投票用紙発送
3 月 1 日	理事・監事選挙締切および開票
3 月 4 日	理事就任依頼状, 理事諾否の葉書送付
3 月 19 日	理事諾否締切

今期の日本生理人類学会選挙管理委員会は次の3名で構成されています。

岡田 明(委員長, 大阪市立大学)  
福島修一郎(大阪大学)  
生田 英輔(大阪市立大学)

**from Editors**

次号 No.1 の原稿締切は 2013 年 2 月 1 日です

▽今号 No.4 は和文誌と PANews 双方の編集後記を安陪が担当させて頂きました。和文誌では編集幹事 6 名が交代で編集後記を執筆するため、6 号ごとに 1 回（年 4 号発刊のため 1 年半に 1 回）、同時執筆の機会が訪れるわけですが、今回、私が PANews の編集担当を受けてから初めての出来事となりました。

▽さて、今年は夏～秋に開催された部会やセミナー、インターコンGRESSなどが多かったため、誌面の多くが関連記事で埋まりました。ご多忙中にも関わらず、御執筆を頂いた関係者の皆様にはこの場を借りて厚くお礼申し上げます。

▽PANews 編集事務局

安陪大治郎 九州産業大学 健康・スポーツ科学センター

仲村 匡司 京都大学大学院 農学研究科

メールアドレス [panews@jspa.net](mailto:panews@jspa.net)

※原稿、お問い合わせなどはこのメールアドレス宛にお送りください。